

# となかまど

VOL

62

2015(H27)年3月10日発行



# 北海道情報大学広報誌 ななかまど

2015 (H27) 3月10日

## CONTENTS — もくじ

# VOL. 62

01	表紙
02	目次/紀要
03	北海道情報大学の教育について (4) 富士学長
04	保護者との懇談会/秋の食生活改善運動
05	蒼天祭(大学祭)を終えて
06	プログラミングコンテスト結果報告
07	プログラミングコンテスト/3年生の就活スタート!
08	島田ゼミ作品「Color」受賞報告
09	島田ゼミ作品「Color」受賞報告
10	第7回図書館賞 結果報告
11	第7回図書館賞 受賞作品
12	第7回図書館賞 受賞作品
13	第7回図書館賞 受賞作品
14	大学院 学生の学会発表について
15	留学生日記 日帰り研修、餅つき大会
16	平成26年度公開講座 終了報告
17	平成26年度公開講座 終了報告
18	部活紹介・HIU簿記研究会
19	大学主要行事報告
20	ななかまど編集隊

## 北海道情報大学 紀要 26-1

北海道情報大学紀要(英:Memoirs of Hokkaido Information University)は、北海道情報大学が定期的に発行する学術雑誌です。紀要発行の意義は、研究発表の場を確保することにあります。北海道情報大学では毎年2回紀要が発行され、内容は、論文のほか、解説、研究ノート、報告などが載せられています。本学の教員が研究者として日常取り組んでいる研究テーマをここに掲載いたします。また、内容をご覧になりたい方は、ウェブサイトでご覧いただけますので、右記のURLからご覧ください。



[http://www.do-johodai.ac.jp/kiyou/kiyou\\_26\\_1.html](http://www.do-johodai.ac.jp/kiyou/kiyou_26_1.html)

### 《 論 文 》

- 教授法に関する一考察  
—教育実習で留意すべきことを中心に—  
小西二郎
- 「教職の意義等に関する科目」  
のねらいについての断章 小西二郎
- 境界型糖尿病患者の2型糖尿病発症に  
対するHbA1cの予測因子としての有用性  
の検討 佐藤浩樹 吉岡英治
- SDNを構成するネットワークサービ  
ス間の連携を実現する方式に関する研究  
高橋基 中島潤
- 観光行動によるメンタルヘルス改善  
効果の検証 長尾光悦 斎藤一  
松田成司 大島直樹 佐々木穂果

●Euclidの互除法、RSA暗号、素因数分解  
の教材化に関する一考察 林雄一郎

●Through the Sociolinguistic Looking Glass:  
Common Japanese Assumptions Concerning  
Foreign Behavior  
Empirical Studies of the Globalization of  
Modern Japanese Lifestyles  
Charles McLarty

●距離の分布に基づくカーネルk-  
平均法のパラメータ探索法 柳信一

### 《 研究ノート 》

●簡易EEGによるBMIの実現可能性  
長尾光悦 海部剛士 伊藤浩一

### 《 報 告 》

●2013年度紀要委員会スタッフ  
ディベロップメント活動報告  
坂本英樹 豊田規人 隼田尚彦  
関根洋 田中里実 喜多歳子  
向原強 広奥暢 佐藤貴俊  
高田かおり

●他大学の現地調査に基づく  
北海道情報大学学生食堂の現状と課題  
長尾光悦 小林裕樹



学長室にて新ななかもど隊員と富士学長

## 情報大学の「すごい」を

このシリーズ最後の北海道情報大学の凄い事実（日本の大学で初めて）は、学生に「主体性」を持たせるという、現在の日本の大学の共通の課題に対して、「主体的な学びに導くための ICT 環境構築モデルの開発」という取組名称で、ICT を利活用して本格的に取り組んでいることです。そのためにはシステムや教材の開発、教員の研修、ICT 環境の整備等でコストがかかりますが、本学では文部科学省から優れた取組に選定され、競争的資金を獲得することで実現しています。平成 24 年度には、「私立大学教育研究活性化設備整備事業」、平成 25 年度と 26 年度には、「私立大学等改革総合支援事業」に選定されました。

## 進化した環境で

北海道情報大学は、e ラーニング分野の先駆者であることは、既に紹介しましたが、主体的学びのプロジェクトでは、e ラーニングをさらに進化させた m ラーニング（モバイルラーニン

グ）の環境を開発しました。学生の皆さんは、iPad を利用することで、学生参加型の授業（アクティブラーニング）の中で、自分で考える機会が増えることになります。「なぜなんだろう」と自分で考えることが主体性を持つための第一歩です。

## 主体性を持つきっかけ

本学の iPad には、学生の皆さんが主体性を持つきっかけとなるための仕掛けが用意されています。将来の職業について考えるヒントが、「先輩の職場見学」にあります。皆さんの先輩が、どんな職業について活躍しているのか、動画で見ることができます。「シリアスゲーム」では、職業の具体的な内容まで理解できるかもしれません。また、本学の教員を動画で紹介している「教員の専門分野探索」では、学生の皆さんの関心を探し出す手助けになるでしょう。このような情報を収集しながら、自分の将来の職業や学びたいことを見つけることで、大学で学ぶモチベーションを高めてほしいと思いま

す。「主体的学びの世界パスポート（冊子）」では、主体性を身に付けるための様々な活動を記録しながら、いろいろな先生と面談することで、いい刺激を受けてほしいと思います。人は、人から刺激を受けることで成長するものではないでしょうか。

## 自分に何が出来るのか

「将来の目標設計」を利用して、自分の将来を考えてみましょう。担任の先生あるいはゼミの先生からのあなたへのコメントは、あなたを勇気づけてくれると思います。そして、自分の学習の成果は、何が出来るのかという形式で表現された「コンピテンシー達成状況」を確認してください。本学は、首相官邸のホームページに「きらりと光る地方の中小規模私立大学」として全国の大学から選ばれた 10 校として紹介されています。「きらりと光る」その源泉は、教職員の努力に添えてくれている学生の皆さんにあると思います。

## 保護者と教員との懇談会が行われました

平成 26 年度の保護者と教員との懇談会を、平成 26 年 10 月 25 日（土）に本学において 1 年生と 3 年生の保護者を対象に、就職セミナー、全体会、学年毎の懇談会及び個別面談の 4 部構成で実施いたしました。

就職セミナーは、福島直樹氏を講師にお迎えし、「親子で取り組む就活」をテーマに、就活生を持つ親としての心構え、お子様との関わり方、就活の苦戦パターンと成功パターン、また、平成 27 年度卒業生から就職・採用活動開始時期が変更になることともなってお子様の就活はどのように変わるのか等ユーモアを交えての講演をいただきました。

全体会では、富士学長から本学の概要、また、新しく定めた本学の学生として守るべききまり「人として、学生としての品格を身につけるための 11 か条」について説明がありました。

学年毎の懇談会では、1 年生では、若松就職部長より学生の就職について、穴田教養部長より教育目標についての説明がありその後、各クラス担任との個別面談が行われました。また、3 年生では、谷川研究科長より大学院について、若松就職部長より学生の就職活動についての説明が行われた後、各ゼミ担当教員と個別面談が行われました。

この懇談会は、保護者の皆様に本学の教育目標や本学が目指す人材育成、教育の実情、就職状況等を理解していただくとともに、学生の修学状況や学生生活の現状、卒業後の進路等につい



全体会 学長からの本学概要の説明

て個別に懇談できる機会としております。

保護者の皆様は、担当教員との懇談と併せて、教務課及び学生サポートセンター事務室で学業や学生生活の状況、卒業後の進路・就職活動等について熱心に質問されておりました。

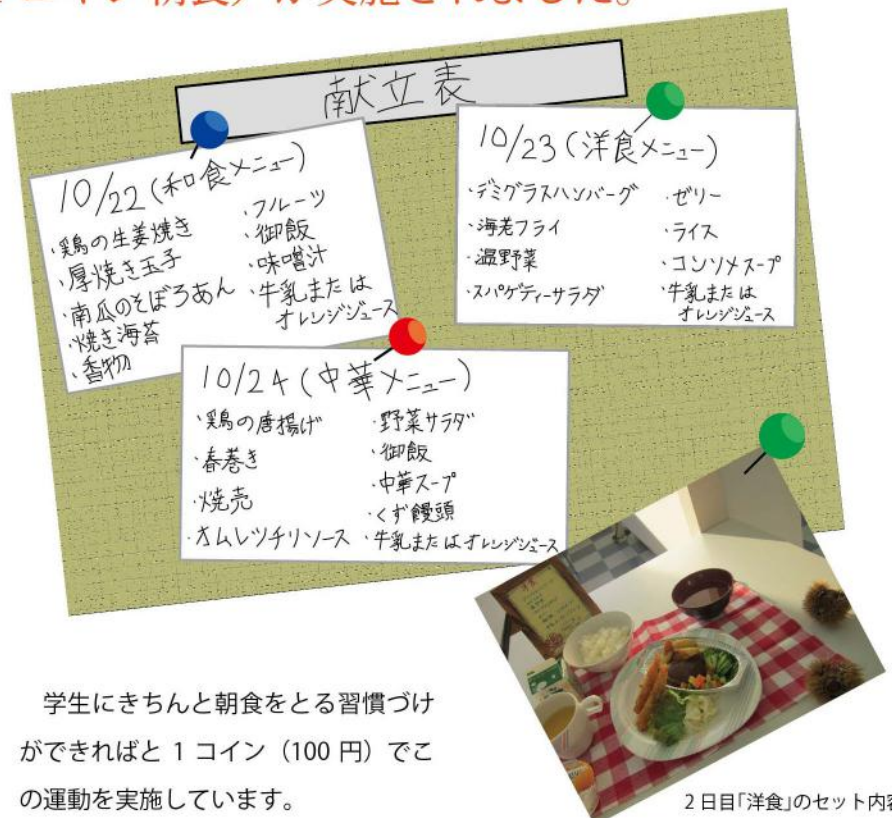
ご多忙中にもかかわらず遠方からも多数の保護者の皆様にご出席いただいたことに感謝申し上げます。今後とも、本学の教育のさらなる推進に、保護者の皆様のご協力を賜りたいと思っております。

## 秋の食生活改善運動（1 コイン朝食）が実施されました。

江別市に所在する 4 大学（本学、酪農学園大学、札幌学院大学、北翔大学）の共同企画「食生活改善運動 1 コイン（100 円）朝食」が 10 月 22 日から 24 日まで行われました。

この運動も、今回で 14 回目（平成 20 年度から春・秋に実施）を迎えました。

朝食は、心身共に健康な学生生活を送るための基礎になります。しかし、親元から離れて生活していると、だんだん健全な食生活から離れ、朝食をとらないことで生活リズムが乱れたり、不規則な食生活が原因で体調を崩してしまうケースも見受けられます。



学生にきちんと朝食をとる習慣づけができればと 1 コイン（100 円）でこの運動を実施しています。

2 日目「洋食」のセット内容



## 蒼天祭（大学祭）を終えて

大学祭実行委員長 大森晃

まずはじめに平成 26 年度北海道情報大学蒼天祭が無事終了することができましたことをご報告いたします。この場を借りまして、ご協力いただきました教職員の皆様、ご協賛いただきました企業の皆様、ともに蒼天祭を創り上げた学生の皆様に深くお礼申し上げます。

今年度の実行委員会は委員会生が少ない中、一生懸命活動してまいりました。その結果、天候にも恵まれ、今年度も花火大会や飴細工といった企画もあり、総来場者が 1,700 名を超え大盛況のうちに終えることができました。参加して下さった一般の方、学生の皆様、教職員の皆様に楽しんでいただ

けたかと存じます。

蒼天祭に来て、楽しんでいただけたようやく実行委員会生としての喜びを感じられました。

しかし、成功したことや喜ばしいことばかりではありませんでした。実行委員会が伝えたいことが上手く伝えることができなかつたり、皆様からいただいた意見や要望に答えられなかつた



りもしました。そのため、参加していただいた皆様にご迷惑をおかけしたこともありました。このような良かったこと悪かったことはこれからの実行委員会を成長させる大きな成果と私は考えています。

今後とも学生実行委員会の活動へのご協力をよろしくお願い申し上げます。



コンピュータプログラミングコンテスト(以下CPC)はプログラミング力を競うコンテストで課題部門と自由部門の2部門で実施しています。両部門合わせて40件の応募作品が集りました。

## 表彰式の様子



## 受賞作品

### 課題部門

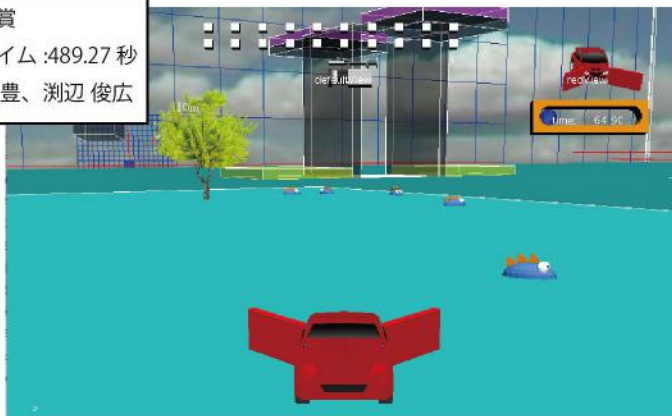
- \* 最優秀賞(平均タイム:489.27秒)  
+ 1112092 清水 友豊, 1112024 瀧辺 俊広
- \* 優秀賞(平均タイム:645.10秒)  
+ 1212034 大石 城司
- \* 奨励賞(平均タイム:1525.35秒)  
+ 1212031 天野 涼

### 自由部門

- \* 最優秀賞  
+ 「DRAGOLAS」1123019: 出町 祐斗
- \* 優秀賞  
+ 「Crisis of Forest」  
1223064: 三浦 愛, 1223014: 島田 敏也
- \* 奨励賞(学籍番号順)  
+ 「囲碁プログラム」1112092: 清水 友豊  
+ 「EGAO」1423103: 大下 範晃

## 課題部門

最優秀賞  
平均タイム:489.27秒  
清水 友豊、瀧辺 俊広



昨年6月19日締切で応募したこの部門は、PCの仮想環境内で車をコントロールするプログラムを提出してもらい、その車で20個の荷物をゴールまで運び切るまでの時間で競います。

純粋にプログラミング技術を競う部門ですが、膨大な試行錯誤が必要で、良い成績を出すためには問題の分析や創意工夫が必要になります。

今回の最優秀賞は、昨年度の最優秀賞受賞者と奨励賞受賞者のコンビが受賞しました。驚異的なタイムを叩き出しています。優秀賞の作品は、初参加ながら急がばまわれの堅実な走りを披露し優秀なタイムを出してくれました。奨励賞は上位2作品からは大きく離されてしまいましたが、他の作品から頭一つ出た作品となっています。

## 自由部門

昨年11月13日締切で応募したこちらの部門は、自分達の作りたいプログラムを自由に作成して応募してもらう部門です。例年力作が応募されるこの部門ですが、今年も力が入った作品を多数提出してもらいました。本年度最優秀賞は「DRAGOLAS」というタイトルのアクションロールプレイングゲームです。

ストーリー仕立てで複数のキャラクターを使い分ける必要があるなどの作り込みがあり、非常に完成度が高い作品です。優秀賞の「Crisis of Forest」は多彩な操作が可能な2Dアクションゲームで、何度もトライしたくなるゲームに仕上がっています。  
(作品は右ページ)



奨励賞の「囲碁プログラム」は、難題と言われる囲碁の人工知能を実装したプログラムで、もう一つの奨励賞「E G A O」は、PCのWebカメラの画像認識を駆使して絵が描けるという作品です。



両部門とも提出されたプログラムは、<http://procon.do-johodai.ac.jp/> からダウンロードできるので、是非試してみてください。

## 国際コンテスト

本年度は、学内のCPCで優秀な成績を修めた学生の中から4名1112008: 甲谷凌大君、1112074: 中島大輔君1212034: 大石城司君、1423103: 大下範晃君を選出し、タイのラジャマンガラ工科大学の学生と共同で国際コンテストを実施しました。

両国合せて8名の学生は、夏休みの期間に日本とタイそれぞれの大学に向き、英語でコミュニケーションを行いながら互いに競いました。

勝負は、甲谷君のチームが1st Prize、大石君のチームが2nd Prizeという結果でした。



## 3年生の就職活動がスタートしました！



就職ガイダンスの様子

3月1日から3年生の就職活動が本格的にスタートしました。今年は政府の方針を受け、例年12月1日からスタートしていた説明会が3月1日へと後ろ倒しとなり、短期決戦の様相を呈してきました。北海道でも札幌ドームや札幌コンベンションセンターで大規模な合同企業説明会が行われ、いよいよ就職活動の本格的な開始時期となりました。

本学においては、遅くとも3月からスタートが切れるように、昨年の5月から各種就職ガイダンスを実施してきました。2月には通常行っている就職ガイダンスとは別に、就職活動のスタート直前講座として土曜日に「エントリーシート対策強化講座」や「面接試験対策強化講座」を実施しています。また、2月上旬から下旬にかけては、IT業界や流通業界など「業界セミナー」、「OB・OG交流会」を実施し、業界や仕事に対する理解を深める取り組みを行っています。

よくやりたいことがないので就職活動を始められないという学生がいます。

しかし、やりたいことがないからこそ、早めに就職活動を始め、自分なりの仕事選びの基準を見つけることが大事です。そのためにも、説明会などに積極的に参加する必要があります。就職活動は初めてのことばかりで、緊張したり慌てたり多くの困難に直面することも多いでしょう。しかし、これを乗り越えれば、精神的に一回りも二回りも大きくなります。何か困ったこと、分からないこと等があれば遠慮なく学生サポートセンターへ相談に来てください。これから数ヶ月、長ければ1年近くの就職活動となりますが、学生の皆さんを万全のサポート体制でバックアップします。

# Color

## 第9回札幌国際短編映画祭 アミノアップ北海道新人監督賞 北海道映像コンテスト 2014 学生部門 奨励賞 受賞の報告

情報メディア学科 島田ゼミ4年 星崎 智也 古川 泰二郎

今回、島田ゼミの4年生（当時3年生）を中心に2013年10月から2014年3月までの約5ヶ月かけて制作してきた短編映画「Color」が北海道映像コンテスト2014年にて奨励賞を札幌国際短編映画祭ではアミノアップ北海道新人監督賞を受賞することが出来ました。今回の企画で私たち2人はプロデューサーを務めました。私たちは近年、メールやSNSなどの間接的なコミュニケーションが多くなっている一方で、直に会って話したり、電話などの直接的なコミュニケーションを苦手とする若者が増えているように感じます。そのような中で、私たちはメールやSNSなどの間接的なコミュニケーションによる矛盾や障害を短編映画として表現し、直接的なコミュニケーションの大切さを伝えたいという想いから、この企画を立ち上げました。

私たち島田ゼミ6期生全員で1本の映画を制作するというのはこの企画が初めてで、ロケ地や役者の交渉、撮影、編集、上映会まですべて自分たちの手で行いました。今回主人公の敬一役を決める際、様々なキャスティング事務所にお伺いし、資料をいただき、監督のイメージに合う人を探していました。しかし、イメージに合う人が見つからず、困っていた時、担当教員である島田准教授から紹介していただいた小林エレキさんが監督のイメージに合い、出演していただくことになりました。







アミノアップ新人監督賞 受賞時の様子

撮影は本大学のそばにある HiIT の 4 階をお借りして、12 月 25 ～ 29 の 5 日間で行いました。作中のほとんどが職場ということで、パーティションとオフィス机をレンタルし、ロケ地で職場を再現しました。撮影当日大変だったことは、作中で使用する折鶴が足りなくなり、撮影の合間や撮影後に強化スタッフなどと一緒に沢山の折鶴を折ったことです。今回ドリー※1 などの特殊機材や、照明をしっかり組んで撮影を行いましたが、追加撮影を発生させることなく無事に撮影を終了することが出来ました。撮影後は編集作業と、上映会に向けての準備を役割分担し、同時に進めていきました。MA※2 やポスター、フライヤーなどまだまだやることは多く残っていましたが、より良い作品や上映会にするため、各々動き回っていました。



今回、その苦労を重ねて制作した「Color」が受賞した北海道映像コンテストは映像関連事業の健全な発展を目的とするコンテストで、企業の作品が多い中私たちの作品は、学生部門で奨励賞を受賞することが出来ました。さらに、第 9 回札幌国際短編映画祭では北海道セレクションに入選し、アミノアップ北海道新人監督賞を受賞しました。第 9 回になる、この映画祭は、世界 95 の国と地域から 3,016 作品の応募があり、ノミネート作品はおよそ 150 本（約 5%）と非常にレベルが高く、国内でも最大級の短編映画祭でした。それぞれのコンテストと映画祭で受賞できたことをとても嬉しく思います。今回の「Color」の制作によって多くのことを経験し、たくさんの方にご協力をいただきました。他の学生では接することのない企業の方や団体の方と接することができて勉強になりました。いい経験にもなりました。皆が諦めずに一生懸命に映画製作を行ったからこそ、今回の受賞に結びついたと感じています。情報大の教職員の方々および関わってくれたすべての方に感謝しています。有難うございました。

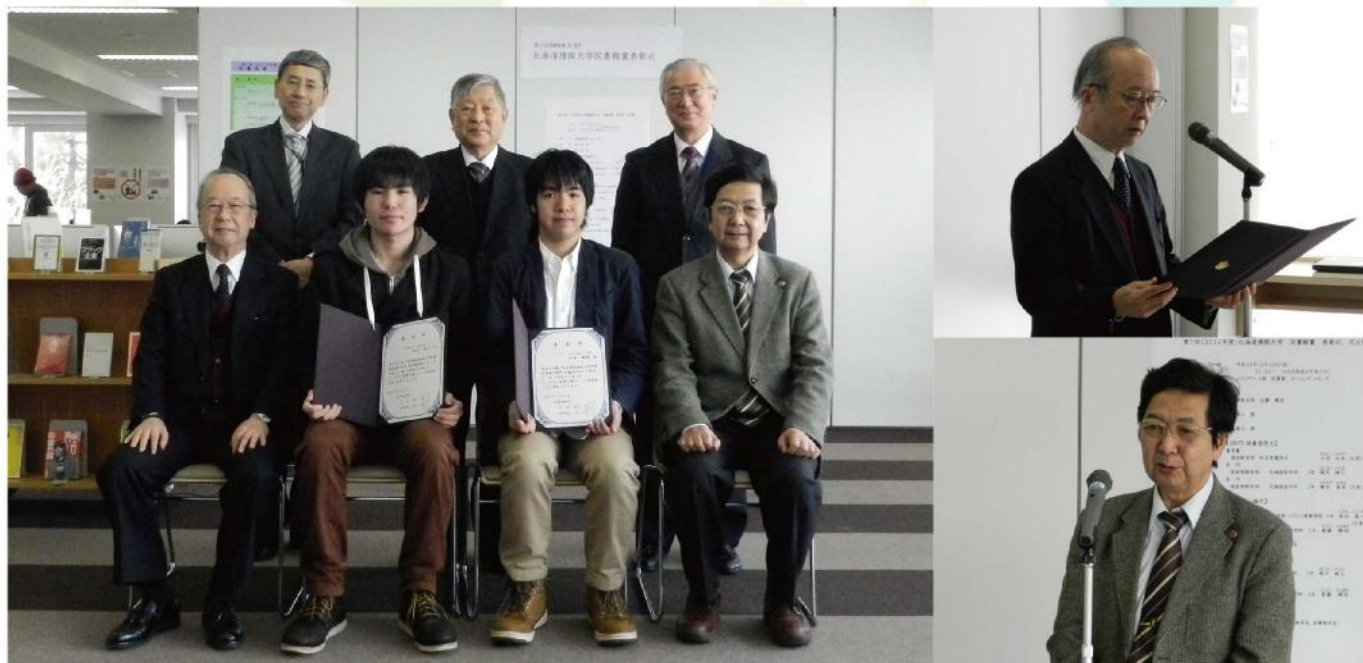
※1 映像の撮影でカメラマンを載せる台車

※2 マルチオーディオ（映像とサウンドを合わせる作業）



# 第7回北海道情報大学図書館賞

- 7th Hokkaido Information University Library Award -



第7回北海道情報大学図書館賞への応募は、読書感想文部門が8点、小論文部門が4点でした。私達の働きかけが不足していたにも関わらず意欲的に取り組んでくれた学生の皆さんには感謝しています。

審査の結果、本年度も両部門において最優秀賞は「該当作品なし」となりました。審査の過程ではその本そのものの引用が多かったり、本の主張に対する自身の視点からの意見が少ないことが取り上げられました。引用の場合もそのことに対する自身の客観性が明確でないことが議論されました。

読書感想文の優秀賞には中西史典さん（通信教育部）の「本当に必要なものは既に」が、佳作には橋本健太さん（先端経営学科1年）の「今野晴貴ドキュメント ブラック企業」と檜田春菜さん（先端経営学科1年）の「スティーブ・ジョブズ 神の遺言を読んで」が選ばれました。また、小論文部門の優秀賞には柴田甚一さん（通信教育部）の「芥川龍之介『秋』一姉妹の「嫉妬の情」と掠奪の対象一」が、佳作には齋藤暢昭さん（情報メディア学科3年）の「本当のコミュニケーションとは何なのか」が選ばれました。なお、石川由起子さん（通信教育部）の作品は、力作でしたが小論文の形式にはなじまないとのことで選ばれませんでした。内容的には素晴らしいものでした。

図書館賞の募集は、来年度も実施します。多くの学生が奮って応募してくれることを期待しています。

## 第7回 北海道情報大学図書館賞 審査結果一覧

### 第一部門 読書感想文 最優秀賞（該当作品なし）

#### 優秀賞

- ・『本当に必要なものは既に』  
中西史典 通信教育部

#### 佳作

- ・『今野晴貴  
「ドキュメント ブラック企業」』  
橋本健太 先端経営学科1年
- ・『スティーブ・ジョブズ  
神の遺言を読んで』  
檜田春菜 先端経営学科1年

### 第二部門 小論文 最優秀賞（該当作品なし）

#### 優秀賞

- ・『芥川龍之介『秋』一姉妹の  
「嫉妬の情」と掠奪の対象一』  
柴田甚一 通信教育部4年

#### 佳作

- ・『本当のコミュニケーションとは  
何なのか』  
齋藤暢昭 情報メディア学科3年



# 本当に必要なものは既に

中西 史典（通信教育部）

年間 100 冊ほど本を読むことを自分に課しているが、なかなか感想を書きたいとまで思う本には出会わない。しかし、ロバート・フルガム「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」は違った。

この本のもとになったのは、哲学者にして教師、牧師でもある著者が、自らが教鞭をとったシアトルの、ある小学校で卒業式の時にした話である。それが話題となり、一冊の本として出版された。偶然の出版から全米で 400 万部、日本でも 70 万部のベストセラーとなった。

著者は言う。「人生に必要な知恵は、すべて幼稚園の砂場で学んだ」と。

- ・何でもみんなで分け合うこと。
- ・ずるをしないこと。
- ・人をぶたないこと。
- ・ちらかしたら自分で後片づけをすること。
- ・人のものに手を出さないこと。
- ・誰かを傷つけたら、ごめんなさい、と言うこと。
- ・食事の前には手を洗うこと。
- ・トイレに行ったらきちんと水を流すこと。

一部を引用したが、このような、全部で 17 条になる「教え」の中に、著者は人間として知っていなくてはならないことがすべて、何らかの形で含まれているという。「このなかから、どれなりと項目を 1 つ取り出して、知識の進んだ大人向けの言葉に置き換えてみるといい。そして、それを家庭生活や、それぞれの仕事、国の行政、さらには世間一般に当てはめてみれば、きっとそのまま通用する」と。

初めて読んだ時、目から鱗が落ちる思いであった。私がこの本を読んだ時、ちょうどこの本に書かれていることを考えていたからだ。

当時私は、学童保育の補助指導員をしていた。ある日、小学校 2 年生の男の子同士が喧嘩をしていた。すぐに引き剥がし、喧嘩の理由を聞き、お互いに悪かったところを謝らせた。二人とも泣きながら相手に謝

り、泣きながらお互いを許していた。

それを見て私は、「ああ、私も昔はああだった。喧嘩した相手を、許すことができた」と、遠い昔のことを思い出した。確かに、相手を許してあげなさいということを幼稚園で先生から教わった。数年間はできていたはずなのに、いったいつから相手を許せなくなってしまったのだろうか。

この本と出会ったのは、まさに私が昔出来ていたことに対して思いをはせていた時だった。我が意を得た思いで、むさぼるように読んだ。他に気になった部分を、以下に紹介する。

## 人魚の話

著者が子供を相手に、集団のできるゲームをした。子供たちは、ジャイアント、ドワーフ、ウィザードの中から一つ選ぶ。それぞれの関係は三すくみになっていて、ジャイアントはウィザードに、ウィザードはドワーフに、ドワーフはジャイアントにタッチされたら負けという対戦ゲームで、日本で言うところの水雷駆逐（水雷艦長）にあたる遊びである。

子供たちはわいわい言いながら自分が何の役をやるか決め、それぞれの陣地に向かった。そのとき、一人の女の子が著者のところにやってきて、「人魚はどこに行くの？」と聞いた。

著者は「人魚はいないよ」と言っても、女の子は「ううん、いるよ。あたし、人魚だもん」と譲らなかった。

ここから著者は「確固たる意志を持ち、常識の枠には当てはまらず、既製の価値観や規範に従いきれない、集団に所属できないマイノリティは、いったいどこに身を置けばいいのか」という話に発展させる。

著者は、「この問いに正確に答えられれば、国家も、世界も、今よりずっと安定するだろう」と続けているが、私も全く同意見である。喜ぶべきか悲しむべきか、私は今まで少数派に立ったことがない。だが、教職の末席に身を置くものとして、彼らの存在を忘れてはならないと考えている。

## 気球の話

1783 年 6 月 4 日。フランス、アノネー村の市場から、布を張り合わせた風船が飛び立った。風船は 6000 フィートの高みに達し、数マイルを移動した。この風船こそは熱気球の嚆矢である。この年の秋、11 月 21 日、人類はついに空を飛ぶという夢をかなえるのであった。

6 月 4 日に行われた風船の実験を見ていた人が、隣の人にこういった。「あんな風船が何の役に立つのか」それを受けて、隣の人はこういった。生まれたばかりの赤ん坊が何の役にたつね？」こう答えた彼こそが、後のアメリカ合衆国建国の父、科学者にして政治家、ベンジャミン・フランクリンである。好奇心旺盛で想像力豊かなフランクリンは、見る目が違った。彼は日記に「気球は大空を人類に開放するであろう」と書いている。そして 120 年後、ライト兄弟によって、ついに人類は「空を自由に飛ぶ」という夢をかなえるのである。

私は思う。現代社会に生きる我々は、とかくせっかちになりがちであると。役に立つか立たないか、使えるか使えないかと言う観点から、物事を見がちである。

それが全面的に悪いとは思わないが、「生まれたばかりの赤ん坊」に対して役に立たないというような愚は、避けたいものである。ワインも、人も、味が出るのには時間がかかる。長い目でみて、じっくり育てる必要がある。

著者の話は一種の寓話である。私も学童保育でたくさんの子供とふれあってきて実感しているが、子供は賢い。時として大人が考え付かないようなことを言って、大人を驚かせる。気づかなかった、あるいは気づかなかったふりをしていたものを、さらけ出す。著者もやはり似たような経験をしており、子供が意図せずに示した大人をうならせる場面を、機を逃がさず捉え、そこから人生の真理を導く。その繰り返しで話が進んでゆく。

大人とはなんなのだろう。誰もみんな子どもだったはず。そして今でも、心のどこかに幼い自分を残しているはず。であるのに日々の忙しさに追い立てられ、昔持っていたものの見方、考え方、教えられたはずの基本的な、大切なルールを心の奥にしまいで、顧みようとしない。

サン＝テグジュペリは著書、『星の王子さま』の中で、「たいせつなことは、目に

見えない」といった。私は、「たいせつなことは、みんなもうすでに知っている」と思う。

著者はいう。「人は学校で様々な物事を教わり、学び、知識を身に付ける。しかし、知識は行動に生かされて初めて意味を持つ」。これもまた当たり前すぎる程当たり前のことであるが、悲しいことに大人は忘れてしまう。知識を得て、満足してしまう

のは、参考書を買って勉強した気になり、満足してしまう、あるいは、本を読みもしないのに本棚に並べて悦に入るのに似ている。

当たり前のことを当たり前。これこそが、良い人生を生きるための秘訣であり、最も難しいことである。

大切なことは、もうみんな既に知っている。後は、実行あるのみだ。



## 小論文部門 優秀賞

# 芥川龍之介『秋』

## —姉妹の「嫉妬の情」と掠奪の対象—

柴田 甚一 (通信教育部)

### 1. 突然泣き出した妹照子

『秋』という作品は、姉の信子と妹の照子がお互いに従兄の俊吉に思いを寄せ、俊吉宛のラブレターを照子がわざと信子の目に触れさせて、信子が身を引くという形で照子と俊吉が結婚するが、二人の結婚生活はうまくいかず、そんな中、信子が妹夫婦の新居を訪ね、姉妹の「嫉妬の情」が再燃するという物語である。

妹の照子と従兄の俊吉とが結婚式を挙げた翌年の秋、姉の信子は妹夫婦の新居を訪ねた。その際、姉妹のやりとりの中で、妹の照子が突然泣き出してしまふ (p166ℓ8) i) (以下同じ)。照子は姉の信子に、「泣かなくなったって好いのよ」と慰められても、容易に泣き止もうとしなかった (p166ℓ10)。なぜ、妹の照子は突然泣き出してしまったのであろうか。

### 2. 姉妹の関係にみる「嫉妬の情」

#### (1) 姉妹の絆の綻び

「照さんは幸福ね」(p165ℓ9)という冗談めかした信子の一言から、俊吉をめぐる姉妹の精神的な亀裂が露呈する。長火鉢のある茶の間で、姉妹の会話が繰り広げられる。

「覚えてらっしゃい」(p165ℓ11)、「御姉

様だって幸福の癖に」(p165ℓ12)、「そう思ってる？」(p165ℓ14)、「そう思われるだけでも幸福ね」(p165ℓ16)

「でも御兄様は御優しくはなくて？」(p166ℓ3)という照子の言葉に、信子は憐憫の匂いを感じて反発する。信子の脳裏に、夫から「小説ばかり書いていちゃ困る」(p155ℓ2-3)と厭味を言われ、創作を断念したときのことがよぎったのであろう。その際、夫は夕刊に掲載されていた食糧問題から、月々の経費軽減について執拗に、ねちねちとした口調で信子に迫ったりもした。照子に夫は「御優しくはなくて？」と言われたときに信子が眺めていた新聞にも米価問題が掲載されており、夫から責められた時の記憶がフラッシュバックしたものと考えられる。

突然泣き出した照子に対して、信子は「私は照さんさえ幸福なら、何より有難いと思っているの。ほんとうよ。俊さんが照さんを愛してくれれば—」(p166ℓ13-14)と低い声で言い続ける。しかし、その一言が照子の「嫉妬の情」を煽ることになる。

#### (2) 会話の応酬の背景

信子が妹夫婦の新居を訪ねた日の夜、

「ちよいと出て御覧。好い月だから」(p163ℓ7)という俊吉の声に誘われて、庭に出たのは信子だけであり、二人だけの時間が経過する。一方、照子は「夫の机の前に、ぼんやり電燈を眺めていた。青い横ばいがたった一つ、笠に這っている電燈を」(p164ℓ4-5) 呆然と眺めていたのである。「荒れた庭」(p163ℓ11)は照子と俊吉、二人の生活・家庭を象徴するものである。小澤保博氏は、「『横ばい』とは、自分の家庭という神聖な領域を荒らす害虫であり、照子にとって姉の信子は駆除しなければならない存在である」ii)と指摘している。さらに続けて、照子は「姉信子の存在を自分の家庭の安逸を脅かす邪魔な存在として認識しつつある」iii)と指摘する。この指摘は、「じゃ御姉様は一御姉様は何故昨夜も—」(p167ℓ2)という嫉妬の情がこもった言動と「又顔を袖に埋めて、発作的に烈しく泣き始めた」(p167ℓ3)行動に現れている。

#### (3) 嫉妬の情

山崎甲一氏は、照子には、信子が結婚する前から既に「嫉妬の情」が根を張っていたと指摘している。

照子が俊吉を「好き」で「愛」していたことが真実であったとしても、彼女のそ

の気持ちを根底で動かしていたのは、姉への「嫉妬の情」と考えなくてはならないであろう。「同伴」者であるにもかかわらず「時々」仲間外れにされ、「何時も」偽善的な妹思いの態度（ポーズ）を見せつけられていた照子の、姉への「抑へ切れない」「燃えるやうな「不平」の念が、その根底に潜んでいるとみるべきである。iv)

照子の「嫉妬の情」は、信子と俊吉の昨夜の出来事以前の、三人の中で「話の圏外へ置きざりにされ」（p149 ㉗）ていた頃から芽生えていたわけである。「じゃ御姉様は一御姉様は何故昨夜も一」とあるように、「も」という助詞は「嫉妬」の誘因が昨夜の出来事だけではないことを暗示している。高田知波氏は、「姉の幻像の呪縛力がいかに長かったかを吐露されているのだ」v)と指摘している。溜りに溜まった「嫉妬の情」が昨夜の出来事をきっかけに溢れ出したものと考えられる。

一方、信子の「嫉妬の情」も以前から芽生えていた。信子が思いを寄せていた俊吉に宛てた、照子からの手紙（ラブレター）を目にしたときに遡る。その手紙は、俊吉に辿り着く前に紛失してしまうが、信子が処分したと考えるのが自然である。また、信子は「何分（なにぶん）当方は無人（ぶにん）故（ゆえ）、式には不本意ながら参りかね候えども…」（p158 ㉔-5）と母と妹に手紙を書き、妹照子と俊吉の結婚式には参列していない。この点においても、信子の妹に対する「嫉妬の情」を読み取ることができるであろう。

#### （4）愛されているかどうかへの不安

照子や女中の留守中に信子が新居を訪れ、俊吉と二人きりでいたことに、照子は「意外らしい気色を見せた」（p161 ㉒-16-p162 ㉓1）。俊吉から愛され信頼していれば、このような疑念は生じないであろう。山崎氏は「夫婦の仲が不安定であるからこそ、照子は信子に「嫉妬」し、「気色」ばまなくてはならない」vi)と指摘している。信子の「俊さんが照さんを愛してくれれば一」という言動や、照子との結納前に、雑誌に掲載された俊吉の小説が「何か今までの従兄にはない、寂しそうな捨鉢の調子が潜んでいるように思われた」（p157 ㉒8-9）といった表現、俊吉が「向うを向いたなり」（p162 ㉓3）の姿勢で照子と会話したり、俊吉が照子ではなく「女中の手から、何枚かの端書を受取」（p161 ㉒15）ったりしていることなどからも、俊吉と照子の夫

婦関係が冷めており、照子が俊吉から愛されていないかもしれないと推察することができる。そして、俊吉との結婚を譲ってくれた信子の手前、愛されているかどうか確信が持てないことへの不安が照子を襲っていたものと考えられる。

高田知波氏も「照子は、俊吉が優しい夫であることは確かであるが、愛してくれているかどうかについては確信が持てず、その空隙に入り込んでくる姉の幻像に脅かされてきた女性である」vii)と指摘している。夫からの愛に対して不安を抱えている照子に、「俊さんが照さんを愛してくれれば一」と信子が付け加えた一言が、照子の最も痛いところを突いたとも指摘する。十三夜の月の下で、照子の視界の外で夫と二人だけの時間を過ごした信子から言われたため、照子は不安を通り越して「嫉妬の情」をあらわにしたのである。

#### （5）掠奪の対象

晩飯の食卓を囲みながら、俊吉は「人間の生活は掠奪で持っているんだね。小はこの玉子から一」（p162 ㉓8-9）という言葉で妹に投げかけている。この俊吉の言葉は、「自分との結婚をめぐる姉妹の間で繰り広げられた心理的暗闘に対する当事者の素朴な発言」viii)であると小澤氏は指摘する。また、山崎氏は「姉妹」「二人」を批評した謎（「皮肉」な「警句」）である」ix)と指摘している。俊吉は、自分が信子と照子との間で奪い合い・掠奪の対象となっていることを承知したうえで、自分を「玉子」になぞらえて妹に語りかけているのである。「此処にいる三人の中で、一番玉子に愛着のあるのは俊吉自身に違いな」（p162 ㉓9-10）いという記述からも、「玉子」が俊吉であることを既に暗示しているものと考えられる。

俊吉と信子が「荒れた庭」に下りた際、寝ている鶏を見て、信子は自分を「玉子を人に取られた鶏」（p164 ㉔2）だと考えてしまう。俊吉（玉子）を照子（人）に掠奪された可哀相な私（鶏）といった具合に、信子は感傷的に浸っている。高田氏は、二人が庭に出ている同じ時間、「玉子を人に取られる」恐怖を味わっていた照子にとっての「玉子」とは俊吉に他ならない」x)と指摘する。このように、俊吉は「玉子」として象徴的に表現されており、それは姉妹間の掠奪の対象とされていることがわかる。

### 3. まとめ

掠奪の対象である俊吉をめぐる姉妹の

「嫉妬の情」は、ずっと以前から姉妹双方に芽生えていた。妹照子は、俊吉宛の手紙をわざと姉信子の目に触れさせることで、姉に俊吉との結婚を譲らせてしまう。俊吉は、自分が掠奪の対象であることを承知したうえで、冷ややかに姉妹に警句を投げかけており、照子との結婚生活も冷めたものであった。

姉信子に対する「抑え切れない嫉妬の情」（p167 ㉔1）と夫俊吉から愛されているという確信が持てない不安から、こらえていたものが堰を切ったかのように溢れ出し、照子は突然泣き出してしまったものと考えられる。

山崎氏は「姉妹のこの表立たない、隠微な葛藤こそ、実はこの「作品」の内面の劇（ドラマ）の中心」xi)であると指摘している。姉妹の「嫉妬の情」に着目して作品『秋』を読み進めてみると、姉妹の行動がいかに「嫉妬の情」に裏打ちされたものであるかを随所に認めることができる。

#### 引用文献

- i) 芥川龍之介『秋』（新潮文庫『戯作三昧・一塊の土』所収）新潮社、2011.11.20（引用頁行はその都度本文に表示）
- ii) 小澤保博「芥川龍之介「秋」を読む」（『琉球大学教育学部紀要（69）』所収）、琉球大学、2006.9、p185 右段 ㉒40-42
- iii) 前掲書 ii)、p185 右段 ㉒43 - p186 左段 ㉒1
- iv) 山崎甲一「『秋』—彼等三人の内面の劇」（『芥川龍之介の言語空間—君看雙眼色』所収）、笠間書院、1999.3.20、p344 ㉒15-18
- v) 高田知波「妹と姉、それぞれの幻像—芥川龍之介『秋』を読む—」（『駒澤國文（46）』所収）、駒澤大学、2009.2、p164 ㉒8-9
- vi) 前掲書 iv)、p354 ㉒9-10
- vii) 前掲書 v)、p164 ㉒2-3
- viii) 前掲書 ii)、p185 右段 ㉒22-24
- ix) 前掲書 iv)、p355 ㉒10
- x) 前掲書 v)、p162 ㉒10-11
- xi) 前掲書 iv)、p345 ㉒5

# 北海道情報大学大学院 経営情報学研究科 経営情報学専攻（修士課程）

## 学生の学会発表について

観光情報学会 第9回研究発表会（於：石川県加賀市）			
8月25日	齊藤 成美	メディア制作論プログラム	修士課程2年
「北海道の独自性を学ぶためのLODを活用したWebサイトに関する研究 ～有名観光コンテンツと似て否なるデータを表示させるシステムの提案～」			
情報処理学会 第11回ネットワーク生態学シンポジウム（於：湘南国際村センター）			
9月5日	小倉 史帆	情報処理プログラム	修士課程2年
	「双方向バイパスを持つラダーネットワーク上のプライスのパラドックスについて」		
	坂本 智晴	情報処理プログラム	修士課程2年
「複雑ネットワークにおける伝搬に関する指標と閉路の関係についての考察」			
ヒューマンインタフェースシンポジウム2014（於：京都工芸繊維大学）			
9月10日	熊谷 賢二	情報処理プログラム	修士課程2年
「奥行き情報を用いたプロジェクションマッピングめり絵ツールの開発」			
教育システム情報学会 第39回全国大会（於：和歌山大学）			
9月11日	宋 爽	メディア制作論プログラム	修士課程1年
「学習用カードゲーム作成のための学習課題の分類と考察」			
9月12日	岩田 まどか	メディア制作論プログラム	修士課程2年
「インフォグラフィックスを用いたソースコードの可視化」			
情報処理学会北海道支部 情報処理北海道シンポジウム2014（於：公立はこだて未来大学）			
10月4日	徐 珊	メディア制作論プログラム	修士課程2年
「在日生活をサポートする中国人向け日本語学習Webアプリケーションの開発」			
電子情報通信学会 非線形問題研究会（於：愛媛大学）			
10月16日	小倉 史帆	情報処理プログラム	修士課程2年
	「両方向バイパスを持つラダーネットワーク上のプライスのパラドックスの考察」		
	坂本 智晴	情報処理プログラム	修士課程2年
「エゴネットワークに基づく閉路と伝搬に関する指標の関係について」			
計測自動制御学会 システム・情報部門学術講演会2014（於：岡山大学）			
11月22日	小倉 史帆	情報処理プログラム	修士課程2年
「双方向バイパスでの中規模なラダーネットワーク上のプライスのパラドックス」			



# 留 学 生 日 記



## 日帰り研修 (7/26)

平成26年7月26日(土)、外国人留学生委員会主催による留学生の日帰り研修を実施しました。参加者は外国人留学生、異文化交流会日本人学生、引率教職員の総勢31名です。行先は新篠津村の「大塚ふあーむ」です。

今回の研修目的は、外国人留学生に日本の農業の一端に触れてもらうことでした。「大塚ふあーむ」は無農薬、無化学肥料の有機栽培にこだわって、いろいろな野菜や米づくりをしています。また土づくりに力をいれているほか、病害虫に対して抵抗力の強い品種を選んで栽培しています。

これらの取り組みはNHKテレビの番組にも取り上げられて全国からも注目されている農家さんです。特にトマト栽培では全国レベルのコンテストでも表彰された優秀な作物です。当日は朝から雨が降り、あいにくの天気でしたが、楽しみにしていたミニトマトの食べ放題は、ビニールハウス栽培でしたので雨に濡れることなく美味しくいただきました。ビニールハウスも10棟以上にいろいろな品種が栽培されており、完熟の甘いトマトで満腹になりました。

トマトでお腹いっぱいになった頃には雨も上がり、屋外の畑に出て大根掘りを体験しました。無農薬ということで、大根の葉は虫に食われていましたが、大根自体は真っ白で大きな大根を収穫することができました。おみやげにナスもいただいて帰りました。

汗と泥に汚れた後は、新篠津村の温泉「たつぷの湯」に入って帰りました。学生たちは、自分の手で野菜を収穫し、取れたての美味しいトマトを味わい、大衆浴場の露天風呂に入るなど、普段の留学生活ではできない貴重な体験をすることができました。



## 餅つき大会 (12/27)

平成26年12月27日(土)、異文化交流会の日本人学生が主体となり、外国人留学生と餅つき大会を行いました。外国人留学生、異文化交流会の日本人学生、教職員の総勢21名が参加しました。

日本で年末年始を過ごす留学生に、近年では見かけなくなった日本の伝統的文化のひとつである餅つきを体験してもらいました。前日に餅米を洗い、一晩水に浸して準備しておきました。当日は餅つき会場となる体育館入り口に、石臼や杵を持ち込み、屋外に薪ストーブを利用して三つのかまどを設置しました。かまどを設置するために皆で協力して除雪を行い耐火レンガを敷き、かまどの準備ができると薪割や火熾しを体験しました。釜のお湯が沸き、蒸籠の餅米が蒸しあがるまでの時間を利用して、隣のかまどで大鍋を使って豚汁を作りました。



前日からの食材準備や、調理するまでの屋外作業などで苦勞しましたが、寒い中でのあたたかい豚汁はとても美味しく、何杯もお代わりする学生もおり、僅か15分程度で大鍋が空っぽになりました。餅は3臼(6KG) 搗きました。留学生は杵を持つのも初めてで、楽しく賑やかな餅つきとなりました。硬い餅米が蒸されて搗くことで柔らかな餅に変化して行く過程を、興味深く観察している学生もいました。搗きたての餅は、温かく柔らかいうちに大根おろし餅、きなこ餅、あんこ餅にして美味しくいただきました。

留学生にとっては、日本の伝統的文化の一端を体験することができ留学生活の貴重な一時を過ごすことができました。

# 平成26年度 北海道情報大学 公開講座 終了報告

平成 26 年度北海道情報大学公開講座にご参加いただき、まことにありがとうございます。厚く御礼申し上げます。おかげをもちまして、全 17 講座にたくさんのご参加をいただき、無事終了することができましたことをご報告させていただきます。

今後も北海道情報大学の社会教育活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

- ・ 全17講座 43回実施
- ・ 総参加人数 198名



「ネットビジネスを知らう (IT閑話⑥)」の様子

**No.1** ・ 現代青少年のコミュニケーションの問題性とその解決法～教育カウンセリングを手がかりに  
 ・ 全1回 ・ 参加費1,000円  
 ・ 参加人数 一般1名  
 ・ 教員免許状更新講習との合同開催

**No.2** ・ Welcome to the World of English 3 (英語コミュニケーション) ・ 英検講座)  
 ・ 全3回 ・ 参加費1,000円  
 ・ 都合により中止

**No.3** ・ ネットビジネスを知らう(IT閑話⑥)  
 ・ 全4回 ・ 参加費1,000円  
 ・ 参加人数 一般16名

**No.4** ・ 自分がわかる教育カウンセリング体験 (基礎講座)  
 ・ 全1回 ・ 参加費1,000円  
 ・ 参加人数 一般6名  
 ・ 教員免許状更新講習との合同開催

**No.5** ・ 食事による免疫力アップとストレス軽減  
 ・ 全3回 ・ 参加費1,000円  
 ・ 参加人数 一般27名

**No.6** ・ 初めてのデジタルカメラ  
 ・ 全3回 ・ 参加費1,000円  
 ・ 参加人数 一般11名

**No.7** ・ 実践ビジネスツール基礎講座プログラム！～きっかけはここから！付加価値作りの最新のトレンドを知らう！～  
 ・ 全4回+追加講座1回  
 ・ 参加費3,000円  
 ・ 参加人数 一般13名  
 ・ 先端経営学科シリーズ講座

**No.8** ・ さらに自分がわかる教育カウンセリング体験 (応用講座)  
 ・ 全1回 ・ 参加費1,000円  
 ・ 参加人数 一般5名  
 ・ 教員免許状更新講習との合同開催



「食事による免疫力アップとストレス軽減」の様子



No.9

- ・ Word2010初級講座
- ・ 全2回 ・ 参加費3,000円
- ・ 参加人数 一般12名

No.13

- ・ Excel2010 初級講座
- ・ 全2回 ・ 参加費3,000円
- ・ 参加人数 一般9名

No.17

- ・ JavaScriptを用いた初級プログラミング
- ・ 全3回 ・ 参加費3,000円
- ・ 参加人数 一般5名

No.10

- ・ 夏休みこどもビデオ講座
- ・ 全2回 ・ 参加費無料
- ・ 参加人数 小学3年生～6年生 6名

No.14

- ・ 果たして未来に何が起きるかは原理的に計算可能であろうか？
- ・ 全2回 ・ 参加1,000円
- ・ 参加人数 一般8名

No.18

- ・ レベルアップ！フォトショップ 中級編
- ・ 全4回 ・ 参加3,000円
- ・ 参加人数 一般7名

No.11

- ・ 夏休み自由研究教室 ～ロボットで科学を学ぼう～
- ・ 全1回 ・ 参加費無料
- ・ 参加人数 小学校高学年とその保護者 35名（親子14組参加）

No.15

- ・ フォトショップ 始めの一歩 初級編
- ・ 全4回 ・ 参加費3,000円
- ・ 参加人数 一般13名

No.19

- ・ 英語でディスカッション
- ・ 全4回 ・ 参加費1,000円
- ・ 都合により中止

No.12

- ・ 実践ビジネスツール基礎講座プログラムII ～きっかけはここから！データ分析と意思決定の最新トレンドを知ろう！～
- ・ 全2回 ・ 参加費3,000円
- ・ 参加人数 一般7名
- ・ 先端経営学科シリーズ講座

No.16

- ・ SNS入門 ～Facebook, Twitterを使ってみよう～
- ・ 全3回 ・ 参加費3,000円
- ・ 参加人数 一般17名



「夏休みこどもビデオ講座」の様子



「実践ビジネスツール基礎講座プログラムII～きっかけはここから！データ分析と意思決定の最新トレンドを知ろう！～」の様子



「SNS入門～Facebook, Twitterを使ってみよう～」の様子

# HIU 簿記研究会



## 簿記研究会とは（通称：簿記研）

簿記研究会は、2013（平成25）年5月1日に設立されたサークルです。  
日商簿記検定1級～3級の取得を目指して、学生主体の勉強会をメインとした活動を行っています。

## 活動日・活動場所 [2014年度後期の場合]

活動日：火・水・木の5講～19時 活動場所：104教室  
※メンバーの空き講に行っています。」

## メンバー募集

HIU簿記研究会では、新しいメンバーを募集しています。  
見学だけでも大歓迎です!!※見学の際は会長までご連絡をお願いします。

## 問合せ・申込み

簿記研会長 酒井梨乃 E-mail : ray.tim62@gmail.com

簿記研HP [http://ozcircle.net/book\\_keepers](http://ozcircle.net/book_keepers) →



# 大学主要行事など

<9月2日~3月1日>

## ◆◆ 教職員の動向 ◆◆

### ◇大 学◇

#### 《職 員》

10月1日付

(昇 任)

通信教育部事務部課長補佐 笠羽 弘城(通信教育部事務部 教務係長)

## ◆◆ 主要行事 ◆◆

### ◇法人本部◇

- 10月16日 理事会・評議員会
- 12月 3日~5日 有限責任監査法人トーマツ「平成26年度期中監査」
- 12月12日 理事会・評議員会

### ◇大 学◇

- 9月 2日~3日 追再試験期間
- 5日 カリキュラムアドバイザーボード会議
- 7日 A O入学試験(B日程)
- 12日 経営情報学部教授会
- 14日 オープンセミナー
- 18日 スタートアッププログラム  
消防訓練
- 19日 医療情報学部・情報メディア学部教授会  
後期授業開講
- 26日 全学教授会
- 31日 前期末卒業生 学位記授与
- 10月10日 経営情報学部教授会
- 11日~12日 蒼天祭
- 17日 医療情報学部・情報メディア学部教授会
- 18日 編入学試験(1次募集)
- 19日 A O入学試験(C日程)
- 22日~24日 秋の食生活改善運動
- 24日 全学教授会
- 25日 保護者と教員との懇談会  
若田宇宙飛行士ミッション報告会in北海道情報大学
- 11月 9日 オープンセミナー
- 12日 経営情報学部教授会
- 20日 医療情報学部教授会
- 21日 情報メディア学部教授会
- 22日 月曜授業日
- 28日 全学教授会  
南京大学外国語学院 I T・日本語クラス編入学試験  
推薦1期入学試験
- 12月 6日 編入学試験(2次募集)
- 7日 入学説明会
- 12日 経営情報学部教授会
- 14日 大学説明会
- 19日 医療情報学部・情報メディア学部教授会
- 20日 特別A O入学試験(A日程)  
火曜授業日
- 23日 水曜授業日
- 24日 月曜授業日
- 26日 全学教授会
- 25日~1月4日 冬期休業
- 1月 9日 経営情報学部教授会
- 12日 推薦2期入学試験
- 16日 医療情報学部・情報メディア学部教授会
- 23日 全学教授会
- 24日 特別A O入学試験(B日程)
- 25日 大学説明会
- 26日 後期授業終了
- 27日~29日 合同試験期間
- 2月 2日~ 3日 一般1期入学試験
- 4日~14日 冬季集中授業期間
- 8日 保護者のための進学資金説明会
- 13日 経営情報学部教授会  
入学前教育プログラム(仲間作り)
- 16日~21日 追再試験期間
- 20日 特別A O入学試験(C日程)
- 22日 大学説明会
- 23日 大学説明会(東京)
- 20日 医療情報学部・情報メディア学部教授会
- 24日~25日 入学前教育プログラム(学習支援)
- 27日 保護者の会役員会

### ◇大学院◇

- 9月12日 大学院入学選抜試験(1次募集)
- 11月25日 研究科委員会
- 12月 1日~4日 学位論文等事前審査会
- 1月21日 研究科委員会
- 29日 学位論文等公開発表会
- 2月 6日 大学院入学選抜試験(2次募集)
- 27日 研究科委員会

### ◇通信教育部◇

- 9月 1日 後期 I Pメディア授業放映開始
- 5日 平成26年度秋期第2回入学選考
- 19日 平成26年度秋期第3回入学選考
- 10月 1日 後期インターネットメディア授業開始
- 2日 平成26年度秋期第4回入学選考
- 17日 平成27年度春期第1回入学選考
- 11月 6日 教育責任者協議会
- 4日 平成27年度春期第2回入学選考
- 22日~23日 後期印刷・インターネットメディア授業科目試験①
- 28日~30日 後期地方スクーリング(1)(福岡)
- 12月 5日~7日 後期地方スクーリング(1)(大阪)
- 8日~11日 後期 I Pメディア授業科目試験
- 12日 平成27年度春期第3回入学選考
- 12日~14日 後期地方スクーリング(1)  
(新潟、名古屋、大阪、広島、北九州、大分、鹿児島)
- 1月 9日~11日 後期地方スクーリング(2)(本学、札幌、東京、名古屋、福岡)
- 10日~12日 後期地方スクーリング(2)(福岡)
- 23日 平成27年度春期第4回入学選考
- 24日~25日 後期印刷・インターネットメディア授業科目試験②
- 2月12日~15日 冬期スクーリング

20日 平成27年度春期第5回入学選考

### ◇国際交流・留学生支援事務局◇

- 11月27日 国際コラボレーションとiCPC帰国報告会
- 12月27日 留学生の餅つき大会 21名  
(外国人留学生15名、異文化交流会日本人学生3名、教職員3名)
- 1月22日 第2回日中学生文化交流会 29名  
(留学生14名、日本人学生12名、教職員3名)

## ◆◆ 広報活動 ◆◆

### 《進学相談会》

- 9月:北海道 8会場(釧路、帯広、厚岸、札幌、旭川、網走、小樽、新札幌)
- 1月:北海道 7会場(旭川、帯広、釧路、北見、函館、札幌、枝幸)
- 11月:北海道23会場(札幌南、函館、岩内、旭川、せたな、紋別、北見、八雲、釧路、知内、新札幌(2)、帯広、深川、札幌(2)、室蘭、札幌北(2)、苫小牧、大樹、浦河、静内)

埼玉県 1会場(さいたま)

- 12月:北海道 8会場(留萌、天塩、苫小牧、滝川、札幌(2)、帯広、釧路)
- 1月:北海道 4会場(富良野、名寄、紋別、中標津)
- 2月:北海道 4会場(名寄、伊達、稚内、函館)

### 《高校内ガイダンス》

- 9月:北海道 1校(北星学園大学附属高校)
- 10月:北海道 3校(千歳北陽高校、北海道栄高校、札幌大谷高校)
- 青森県 1校(青森中央高校)
- 埼玉県 3校(大宮開成高校、小松原高校、小松原女子高校)
- 東京都 1校(昭和第一高校)
- 11月:北海道 9校(北星学園女子高校、帯広北高校、駒澤大学付属苫小牧高校、小樽桜陽高校、おといっつふ美術工芸高校、富良野高校、石狩翔陽高校、旭川大学高校、札幌龍谷学園高校)
- 東京都 1校(東海大学菅生高校)
- 神奈川県 1校(横浜清風高校)
- 12月:北海道 8校(遺愛女子高校、札幌北斗高校、網走桂陽高校、札幌第一高校、江別高校、札幌創成高校、帯広大谷高校、旭川実業高校)
- 1月:北海道 1校(武修館高校)
- 2月:北海道 4校(釧路明輝高校、追分高校、クラーク記念国際高校(白石)、真狩高校)
- 千葉県 1校(柏日体高校)

### 《高校内進路講演会》

- 9月:北海道 3校(小樽明峰高校、滝上高校、羽幌高校)
- 10月:北海道 5校(音更高校、野幌高校、南幌高校、旭川大学高校、旭川龍谷高校)
- 11月:北海道 8校(俱知安高校、函館大妻高校、富川高校、旭川龍谷高校、羽幌高校、札幌東豊高校、おといっつふ美術工芸高校、長万部高校)
- 12月:北海道12校(双葉高校、中標津高校、江陵高校、函館商業高校、小清水高校、八雲高校、星槎国際高校(芦別)、釧路東高校、平取高校、美瑛高校、真狩高校、伊達高校)
- 1月:北海道 3校(函館大妻高校、清里高校、名寄産業高校)
- 2月:北海道 3校(名寄産業高校、室蘭東翔高校、伊達高校)

### 《高校出張講義》

- 9月:北海道 4校(釧路明輝高校、厚岸翔洋高校、霧多布高校、江差高校)
- 10月:北海道 2校(上ノ国高校、岩内高校)
- 11月:北海道 8校(札幌啓北商業高校、静内高校、札幌山の手高校、札幌清田高校、札幌南陵高校、江別高校、雄武高校、クラーク記念国際高校(本校))
- 12月:北海道 5校(クラーク記念国際高校(大通)、穂別高校、江陵高校、霧多布高校、追分高校)
- 1月:北海道 3校(新得高校、清里高校、大樹高校)

### 《高校訪問》

- 9月:北海道200校、茨城県2校、埼玉7校、千葉県2校、東京都10校、神奈川県5校
- 10月:北海道48校、秋田県22校、埼玉県2校、千葉県2校、東京都2校、神奈川県2校
- 11月:北海道82校
- 12月:北海道151校、埼玉県5校、千葉県3校、東京都5校、神奈川県3校
- 1月:北海道85校、茨城県2校、埼玉県4校、千葉県1校、東京都6校、神奈川県5校
- 2月:北海道148校、埼玉県1校

### 《オープンキャンパス》

- 9月14日 本学
- 10月12日 本学
- 11月 9日 本学
- 《入試説明会・大学説明会》
- 12月 7日 本学(入試説明会)
- 14日 本学(大学説明会)
- 1月25日 本学(大学説明会、保護者のための大学進学資金説明会)
- 2月 8日 本学(保護者のための大学進学資金説明会)
- 22日 本学(大学説明会、保護者のための大学進学資金説明会)

### ◇通信教育部◇

#### 《入学説明会:本学独自》

- 9月:6会場(旭川、函館、東京(3)、本学)
- 12月:5会場(本学、東京(2)、名古屋、大阪)
- 1月:4会場(本学、東京(2)、福岡)
- 2月:1会場(東京)

#### 《合同入学説明会:私立大学通信教育協会主催》

- 1月:2会場(仙台、新潟)
- 2月:11会場(札幌、さいたま、東京(2)、横浜、名古屋(2)、大阪(2)、岡山、福岡)

## ◆◆ 主な来学者 ◆◆

### ◇広報室来学者◇

- 9月 5日 札幌東豊高校(大学見学会:生徒77名、教員3名)
- 12日 北白石中学校(大学見学会:生徒40名、教員1名)
- 19日 石狩翔陽高校(大学見学会:生徒40名、教員2名)
- 10月 8日 江別高校(大学見学会:生徒45名、教員2名)
- 16日 千歳北陽高校(大学見学会:生徒6名、教員1名)
- 22日 美東東中学校(大学見学会:生徒7名、教員1名)
- 29日 北広島西高校(大学見学会:生徒40名、教員1名)
- 余市紅志高校(大学見学会:生徒54名、教員4名)
- 11月 4日 岩見沢緑陵高校(大学見学会:生徒40名、教員2名)
- 12日 恵庭南高校(大学見学会:生徒38名、教員1名)
- 17日 旭川龍谷高校(大学見学会:生徒10名、教員1名)
- 12月 5日 北広島西高校(大学見学会:生徒27名)
- 12日 駒澤大学付属苫小牧高校(大学見学会:生徒9名、教員1名)

### ◇国際交流・留学生支援事務局◇

- 12月 1日 JICAタイ王国青年研修生17名(タイ青年14名、JICA関係者3名)
- 1月27日 タイ王国 IRDP(政府各省庁のIT関係者団体)16名
- 2月 3日~8日 南京大学外国語学院 2名(汪平副院長、陳華主任)

# ななかまど 編集隊

vol.62

実際の編集について  
話してみました。

初めまして、vol.62 から新しく隊員になったこっしーです。今回は編集長と新入隊員たちとななかまどについて、ポポラマーマ江別野幌店にてパスタを食べながら座談会を行いました！



堀越「今日は新しい編集隊が入隊したので (私も新入隊員ですが)、まず自己紹介から始めたいと思います。編集長からどうぞ。」

林「はい、編集長らしいです。3年の林美波です。好きなものは卵かけご飯です。後輩ばかりで緊張していますが、よろしくお願いします。」

越前「2年の越前沙理です。好きな食べ物はラーメンです。」

中村「同じく2年の中村愛理です。好きな飲み物は味噌汁です。」

鹿野「鹿野英恵です。好きな食べ物はアボカドです。趣味は、読書とか写真撮ったりするのが好きです。」

堀越「こっしーこと堀越麻希です。好きな食べ物はホルモンです。みなさんよろしくお願いします。」

全員「よろしくお願いします。」

堀越「では、みなさん初めてのななかまど編集だったので…」

林「あ、(料理) きちゃった。」

堀越「食べてから話しましょう。」



全員「ごちそうさまでした！」

堀越「では、担当したページと初めての編集をしてみたのどうだったのか教えてください。」

林「図書館賞 (p11~13) のページをやりました。ページ数にしては文字数が多かったのですが、文字のサイズを小さくしたりして、うまく収めることが大変でした。おわり。」

越前「目次 (p02) と留学生ののところ (p15) を作成しました。文字と写真をうまく配置するのが難しかったです。あと列が揃わなかったのが上手くデザインできたか不安です…」

中村「学長の原稿 (p03) と就活スタート (p05) のところを担当しました。

学長の原稿は4つに分かれていて、見出しがなかったのを考えるのが難しかったです。」

鹿野「私は、図書館賞 1 ページ目 (p10) をやって、写真の配置と文字の配置をどこにするか迷って、結局、写真の配置は去年と同じようになってしまったので、もう少し上手くできたら良かったなって思いました。」

堀越「私は、表紙 (p01) と裏表紙 (p20) を担当させてもらいました。表紙は写真を入れて文字の色を変えるだけだったので割と簡単にできました。でも、これで良かったのかなって思うこともあります。裏表紙は (編集作業が) 初めてのことばかりで右も左もよくわからなかったのですが、先生や先輩たちのおかげでなんとか作成できたなって思います。」

堀越「みなさん、お疲れ様でした！」

全員「お疲れ様で〜す。」

ななかまどはこのように、ひとりひとりがじっくりと考えて丁寧編集しています。他にも講義や今年の目標や就職について楽しくゆる〜く話したりしました。これを読んで、ななかまど編集隊のことが気になった方は下記に詳細を記載していますので、お気軽に連絡ください。

## 編集隊募集中

現在、ななかまどと一緒に編集してくれるかたを募集しております。デザインに興味ある方、本の編集に興味がある方、やる気があればどなたでも大歓迎です。仲良くわいわい作成しているので、ななかまどと一緒に作成して盛り上げていきませんか？気になった方、参加したい方は情報メディア学部・川上研究室 (228) までお越し下さい。

